目の絵があると、公共場面での行動基準は変動するのか？

大原 貴弘

(いわき明星大学 人文学部)

キーワード：視線手がかり、行動基準、公共場面

Do gaze cues enhance a norm consciousness in public space?

Takahiro OHARA

(College of Humanities, Iwaki Meisei Univ.)

Key Words: gaze cue, behavioral standard, public space.

目 的

他者からの評価が下がると、集団から排斥される危険性が高まる。そのため、他者の視線の存在は、公共場面での行動の有り様に強い影響力を持つことになる。さらに近年では、周りに他者がいなくとも、単純な目の線画や写真（視線手がかり）があるだけで、協調的行動が促進されることが報告されている（ex. Ernest-Jones, et al., 2011）。この結果は、視線手がかりの呈示によって、自己利益追求が抑制され、他者利益追求が促進されたためだと解釈できる。このような視線の効果は、公共場面においてどのように振る舞うかに関する「行動基準」に対しても波及する可能性がある。本実験では、行動基準に関する質問紙回答において、(1) 質問項目の行頭記号に視線手がかりを用いることで、行動基準は変動するか、(2) もし変動するならば、視線手がかりはどのような「他者」の視線として機能しているかについて検証した。

方 法

参加者：40 名（男性：11 名、女性：29 名）

材料：参加者の行動基準を測定するため、行動基準尺度（菅原ほか、2006）を用いた。この尺度は、公共場面で行動する上で、(1) 自己の利益や自由（自分本位）、(2) 身近な集団への同調（仲間的セケン）、(3) 地域社会からの評価（地域的セケン）、(4) 見知らぬ他者への配慮（他者配慮）、ならびに (5) 社会全体の利益や公平性（公共利益）の 5 つを、それぞれどの程度重視するかを測定する尺度である。各下位尺度は 4 項目の質問から構成されており（計 20 項目）、「よく当てはまる (5)」から「全く当てはまらない (1)」の 5 件法で尋ねた。

実験では、20 項目を 10 問ずつに分け（各下位尺度から 2 項目ずつ）、2 枚の質問用紙を作成した。一方の質問用紙では、各質問の行頭記号として目の絵を用い（目有り条件、図 1 参照）、もう一方の用紙では黒丸を用いた（目無し条件）。なお、項目内容・目の有無・質問紙の回答順序の組み合わせについては、参加者間で相殺した。

図 1 目有り（上）・目無し（下）条件で使用した刺激例

手続き：質問紙への回答は一人ずつ行い、回答時には実験者も退室した。

結 果

目有り・目無し条件間の比較をするため、各下位尺度得点の平均を条件ごとに算出し（表 2）、対応のある t 検定を行った。その結果、目無し条件に比べて、目有り条件は「地域的セケン」・「他者配慮」・「公共利益」の得点が有意に高く、「自分本位」の得点は有意に低かった（いずれも $p < .001$ ）。また、「仲間的セケン」では有意な差は見られなかった。

表 1 目有り・目無し条件における各下位尺度得点の平均

	目有り		目無し
自分本位**	1.57 (0.55)	<	2.44 (0.81)
仲間的セケン	2.95 (0.69)		2.96 (0.62)
地域的セケン**	4.33 (0.59)	>	3.80 (0.80)
他者配慮**	4.46 (0.64)	>	3.33 (0.76)
公共利益**	3.84 (0.58)	>	2.78 (0.59)

括弧内 SD、** $p < .001$

考 察

本実験の結果から、視線手がかりの呈示が、行動基準を変動させる作用、すなわち自己利益（自分本位）の追求を抑制させ、他者配慮や公共利益を重視させる作用を持つ可能性が示された。さらに、参加者内の実験計画を用いたことにより、個人内で行動基準が変動しうる可能性も示唆された。

以上の結果は、視線手がかりの知覚によって、その視線の所有者としての「他者」の存在が脳内で喚起され、結果的に「内在化された規範」が活性化されたことによると推察される。また、視線手がかりによって喚起される「他者」とは、仲間や知人のような特定の具体的な他者というよりも、むしろ不特定多数の抽象的な他者であると考えられる。

ただし本実験では、行頭記号の違い（目の有無）や実験目的についてどの程度気づいていたかに関しては、参加者に確認していなかった。今後、このような点を統制し、より精密に検討してゆく必要がある。また、今回確認された視線の効果が、質問紙回答だけでなく、実際の規範的行動にまで波及するか否かについても、今後の検討課題といえる。